

大学院特別講演メモ

日時：2007/08/02 18:00～

至；歯学部病院カウンセリングルーム

講師：本村 春彦 先生（川添記念病院）

歯科臨床に役立つ精神科概論 民間精神科病院における臨床経験から -

【講師からのメッセージ】

「精神疾患をどのようにイメージしたらよいか」というテーマをもとに、おそらく通常の講義や、専門書中の記載だけでは伝わりにくいであろうと思われるところを中心に、トピック的に話をしました。「精神障害というものが、頭の中に既にあるイメージとはどうも少し違うみたいだ」と思ってもらえたら十分です。

< 精神病と神経症の違い >

話の内容が質的に「理解できない」、通常では体験できない（幻覚妄想等）ものは精神病(psychotic) レベルと考えられ、量的に尋常でなくても、質的には「理解できる」ものは神経症(neurotic)レベルと考えられることが多い。

< 精神障害の分類を考える上でのポイント >

1. あくまで症候群であり、病因分類ではない（DSM— など）
2. 表現のバリエーションが大きい
3. 正常と異常の区別が重要
4. 病気と性格の区別が重要

1. について

「～障害」と呼ばれ一見同じもののように考えられやすいが、同じ不安・抑うつ症状が表出されていても、原因が全く異なることが多い。

2. について

同じ症候群でも表現型のバリエーションが大きい。

患者さんによって元の性格や知能が違うので、症状の発現の仕方が様々で、治療の方法が違い、経過も異なる。

少量の薬剤で予後が非常に良い人、効果が乏しい人もいる。

何もかも一括してまとめることは無理がある。

3. について

性格障害 本人が困るか社会が困るもの

ものすごく変な人だけど、社会に適応しており、問題にならない人がたくさんいる。

社会との相対的な関係が大切

実際の「性格の偏り」と診断の「性格異常」は別々に考える必要がある

4. について

病気：ある時点から発症して経過するもの

性格：遺伝 + 環境（一生継続していくもの）

- ・ 病気になるには、それまでの生活からの質的な変曲点があるはず。
- ・ 病気 + 性格を勘案しながら診断、治療を進める。
- ・ 病気は医療で対応できるが、性格は主に教育・矯正（更正）などでの対応となる。対応できるところと、できないところの見極め、説明が必要。
- ・ どの状態で「治癒」とするかが非常にあいまいである。もともとどういった人なのかを考えながら治療していく。

・ 性格 + 不適応の発症の仕方

病気にみえるが、元の性格が問題 + 環境の変化があったときにも発症する
性格と環境の相対的な関係を考える必要あり

どちらの問題が大きいのか？

性格の問題 > 環境の問題

性格 < 環境

性格 = 環境

いわゆる<うつ病>について、これらをふまえながら考えていくと

- ・ 単一、均一なものではない。
- ・ 「自殺」の危険があるため、早期発見・治療が必要である。
一方で「うつ病」もときも増えている。
- ・ ひとつの考え方として、「うつ状態」とは、脳の機能が全般的に低下した状態（気分調節低下、活動性低下、思考力低下、集中力低下、間脳脳幹部機能低下（自律神経系機能低下）、自我機能低下？）と考えることもできる。

・ 「うつ」の種類

精神病性の「うつ」

单相性、躁うつ病のうつ状態が代表的。

自責感が強く、微小妄想があることもある。社会的に認められた「いい人」が多い。

神経症性の「うつ」

(1)神経症性格のうつ：几帳面、神経質、くよくよ悩むひとが、考え込みすぎでうつ状態にはいってしまうもの。

(2)性格の偏りに関連するうつ

思った通りにならないとイライラしたり落ち込んだりする。

性格の偏りに関連のあるうつ状態の見分け方としては、

病前性格が他のタイプのもとは違う

元々の社会適応性が悪いことも多い

気分の変化の激しさ（機嫌がよかったり悪かったりする）

「自分はうつ病」と主張することも多い（うつ病に逃げ込んでいる？）

好きなことをしているときは調子がよい

周りの人にからんだりする（他罰的傾向）

などの点に注目するとわかりやすいかも。

神経症性のうつ、性格問題のうつは、比較的精神的健康な状態に近い。一方、

精神病的うつ状態は自我機能の低下が大きく関与していると考えられる。本当に重症な例では、SSRI が効かないことが多く、古典的な三環系抗うつ薬が必要なことが多い。

< 自罰的と他罰的 >

何か問題が起こったとき、分析して自己反省することで成長していくものであるが、他罰的であると人のせいにしてしまい成長しない。単純化すると、他罰的な人は、未熟な性格傾向をもつ可能性が比較的高いのではないか？最近では自罰的よりも他罰的な人が多くなってきたように見受けられる。未熟な性格の「うつ」が多くなってきた印象が強い。